

OPERA
INOCHI

物語と音楽

Story & Music

星出 豊



｜ 序幕 ｜ 祈り ｜

世界でお寺の梵鐘の音と教会の鐘の音が同時に聞ける唯一の街 長崎。
この地での祈りは、世界で一番の鎮魂の祈りであると思われる。
このオペラは、与えられた“いのち”を失ってしまった世界中の人々の魂に、
安らかな眠りが与えられるように、長崎から静かな鎮魂の祈りを送るものである。

陀羅尼で始まる、僧の祈り

オーン あやまりなく世界の隅々まで光照らすものよ
大いなる地に住するものよ 智慧と慈悲持つものよ
光輝きたまえ その光をめぐらしたまえ フーム

男声合唱にて静かに歌われはじめ、チェロ、ヴィオラ、ヴァイオリン、コントラバスが、
言葉に誘われるように演奏される。

1988 春

| 第一幕 | 一場 |

穴弘法寺付近の広場



この“いのち”の主題には多くの意味が含まれている。与えられた命を神に感謝する旋律として、また、亡くしてしまった多くの命への祈りとして与えられている。冒頭、この主題が僧と松尾医師の出会いを求めるかのように、弦楽器のフーガ形式で演奏されている。



28年前に妻の夏子を原爆症で亡くした松尾医師は、夏子の墓参りの帰りに、祈りをしていた僧に出会い“つつじ”を貰う。僧は夏子の壮絶な人生を聞いており、毎年命日には彼女が大好きであった“つつじ”を手向けていたのだった。墓参りを終えたばかりの松尾は、毎年供えられている“つつじ”が、この僧からのものであったことを知り、驚きと共に夏子への想いが蘇り号泣するのだった。そこに子供たちが現れ、松尾を遊びに誘う。彼は断りながらも子供たちの元気な遊びのリズムに乗って、自分の過去を振り返っていたのだが、再び子供たちに誘われ遊びに加わっていく。子供たちに“つつじ”の話を聞かれ、夏子との思い出の“つつじ”には被爆した者の悲しみが詰まっていることを子供たちに話しておきたくなり、自宅へ子供たちを連れて行くことにする。

松尾の回想によってドラマが進み、時代が遡っていく。

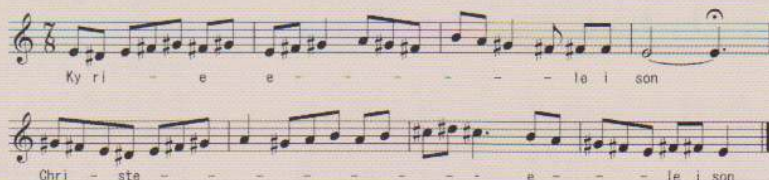
1867

| 第一幕 | 二場 |

浦上四番崩れ



“いのち”の大切さを語る松尾は、日本の歴史の中でも重要な事件の一つ、宗教弾圧を語り始める。



緊迫感のある変拍子と祈りの変拍子が見事に調和してこの悲劇を描く。

村人たちが歌うKyrie eleison(主よ 憐れみたまえ) Christe eleison(キリスト憐れみたまえ)のにせて、テルと吉蔵の二重唱が人の命を奪う悲しさを表している。隠れキリシタンの持つCredo(クレド)の心を力強く合唱で歌わせながら、パレエには信者たちの心の悲しみと、生きる為の救いを表現させている。

1957 春

｜ 第一幕 ｜ 三場 ｜

病院の一室



松尾医師は、原爆が投下された日は博多の病院に出張しており被爆していない。松尾の師である山田医師は、長崎の他の病院に出向いて診療している時に被爆。看護婦(師)である夏子は、夜勤看護を終え自宅に帰り休息している時に被爆した。この3人の葛藤が病室内で行われる。



夏子の登場には前景で使われたリズムが使われ、夏子の持つ運命を語っている。山田がクリスチャンであることを知っている夏子は、何時もこの旋律を口ずさみ、彼の心を癒している。

山田医師が入院している病室に、夏子が“つつじ”を活けに来る。

山田は原爆症における残り少ない自らの命を悟り、松尾医師に自分の苦い経験を語りながら、医者の本分を生かした治療をする医師になるよう説得している。松尾は、博多に居て被爆をしていない自分には、被爆者の本当の辛さが分からない、と決めつけ、よそ者の自分には治療する資格がないと叫ぶ。夏子も、自分に死期が近づいていることに気が付いているが、必死に生きようと努力している。しかし、山田と松尾のそれぞれの心が分かるが故に苦しむ。死を目前にした山田は、松尾に自分の経験を語ろうと決心をする。

それは、1945年8月9日11時2分以降の話である。

厳しい変拍子の音楽の中に、3人が感じている“いのち”の尊さが語られる。日本語独特のリズムを見事に活かした変拍子は、言葉に緊張感を与え、人間の葛藤を分かり易く表現している。

基本的にはこのリズムが多く使われている。

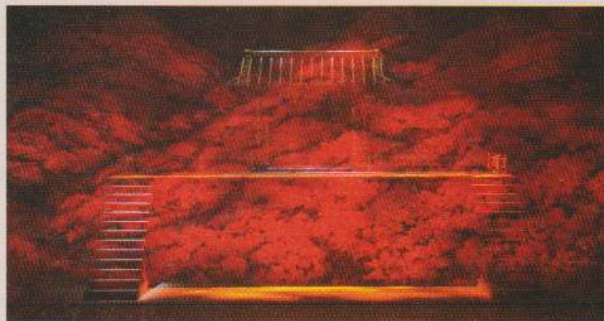


夏子、松尾、山田による三重唱では、各々が強く生きねばならぬ信念を歌いながら、最後には三人の心が長崎の海に向かい、豊かな自然に救われている長崎人の心を美しく歌う。魅力的な三重唱である。

後半歌われる山田の歌だが、子供たちの合唱“でんでらりゅうば…”の使い方が巧妙で、山田が、今の子供たちだけに原爆を味わわせたくないと思う、被爆の苦しみが良く出ている。

1945

| 第二幕 | 原爆投下日 |

8月9日11時2分以降の
穴弘法寺付近

穴弘法寺は、西山地区に逃げる人々で埋まった！

山田医師夫妻はこの日、依頼を受け特別治療に出向いていた。そこで被爆し治療を行っていたが、自分の病院が心配になり、助けられる人々を探しながら、この場所に通じかかる。夫妻は人々を救いながら別れるが、二度と会うことは出来なかった。被爆した人々が次々に登場してくる。その中の一人の子供(奈々子)によって、子供の心から見た戦争、原爆によって人が変わってしまった人間の姿が歌われていく。

美しい旋律が、奈々子の悲しさと、心の美しさを描き出している。この奈々子は、最後に歌われる“原子雲の下で…”の子供を描写している。

看護婦(師) 夏子は夜勤を終えて自宅に帰った時に被爆し、急ぎ病院へ駆けつける途中、この場所を通り奈々子に会う。夏子は奈々子を助け病院に連れていく。



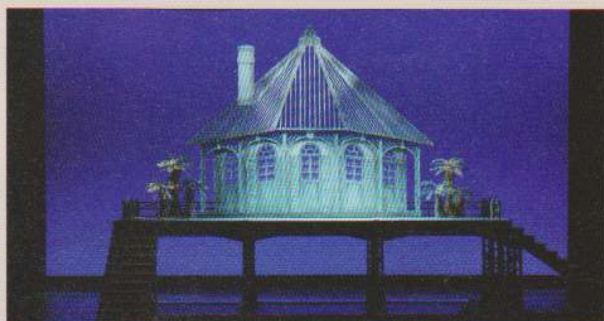
“いのち”の主題がヴァリエーションされながら度々現れ、“いのち”とは何かを問いかける。

穴弘法寺の住職は語ってくれた。「先代の住職はこの寺の庭で何人もの方を茶毘に付した。そして多くの人がこの寺を抜けて東高の方へと救いを求めた。」と。

1959 秋

| 第三幕 | 一場 |

グラバー邸

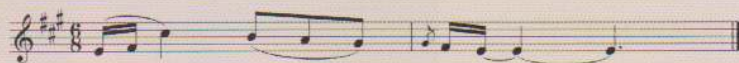


戦後14年が経ち、長崎は必死の努力で復興を遂げた。グラバー邸もようやく一般に開放され10円の入場料で誰もが入れられるようになった。観光客も少しずつ増えてきた、とある日曜日のグラバー邸。

自分とはよそ者、と思いながらも山田医師の後を継ぎながら医者として努力している松尾医師と、看護婦(師) 夏子がグラバー邸を訪れている。元入院患者の浩司とトメに偶然再会するも、集まるとやはり被爆者の話になってしまふ浩司とトメ。夏子は同情するが、自分の被爆した病状を皆に隠しているのも、あまり深く話をしたくない。松尾は、自分には分からない何かがあると再び思う。松尾と夏子の愛は深まってはいるが、何回求婚しても夏子の返事ははっきりしない。松尾は今日も結婚の話を持ち出すが、夏子は「ありがとう」の言葉を残して走り去る。グラバー邸の入り口まで走った夏子は倒れてしまい、救急車で病院に運ばれる。

浩司とトメの二重唱では、戦後 10 年に建てられた平和祈念像に物申した被爆者の想いも少し加味した発言にしてあり、旋律の重さがその想いの重さを象徴しているようである。

夏子と松尾の愛の心は、ブッチーニ作曲の「バタフライ」的一幕二重唱を少しだけ借りてある。



バタフライは改宗したために、親戚がみな去ってしまった。夏子は原爆で総ての親戚を失ってしまった。「でも 生きているがゆえに 今は幸せです」不幸の内容は同じではないが、頑張って生き抜こうとする精神に付いてくる幸せは同じなのである。原語で歌っても、ストーリー的にあまり差異が無いようにしてある。夏子と松尾の切迫した心の動きが、ブッチーニの旋律によって救われている。

第三幕 二場

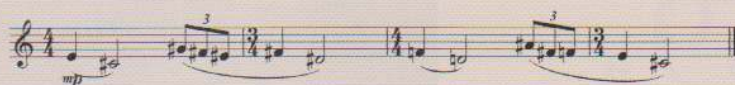
病院の庭



夏子が入院した病院の庭での、夏子の担当医：岩村女医と松尾医師の会話。

岩村女医も被爆者であり、夏子と同じような運命を歩いている。岩村はこれまで他人に一切話さなかった自分の過去を、夏子の心を救う為に初めて松尾に告白する。

心の葛藤をアリア形式で歌わせているが、柔らかい旋律性の中に、伝える言葉の重さが描かれている。木管楽器で奏される岩村女医の主題が彼女の心の葛藤を表している。



第三幕 三場

病院の一室と フィナーレ



松尾は、夏子の好きな“つつじ”の絵を持って見舞いに来る。夏子は、自分の“いのち”の残りの短さを認識しながらも、心に一つの変化が起きたことを感じている。松尾医師は、告知をされている夏子にもう一度結婚を申し込む。夏子の心を押してくれたのは、松尾の温かい心と長崎のお祭りであった。

結婚を決意する夏子には、被爆した子供の詩が思い出された。

“ 原子雲の下で母さんに すがって泣いた 長崎の子供の悲しみを…”

静かに “いのち”の主題が流れ、多くの亡くなった方々が浮かび上がってくる。

大合唱の中に聞こえてくる、梵鐘の音、教会の鐘の音。

1959 年結婚 松尾夏子となる。

翌 1960 年 松尾夏子死す。



僧は静かに語っていた

「夏子の “いのち”を奪ったのは誰でもない。戦争だった！」

我々に与えられた “いのち”とは何なのであろうか？

必死に生きている間は、考えることすらできない “いのち”

人の “いのち”は奪ってはならない、

我々の “いのち”も自らの手で奪うことは出来ない！

世界の人々よ！

もう一度考えよう “いのち”を！

あなたは、自分の意志で “いのち”を貰うことができますか？

楽器編成

2 Flauti 2 Oboi 2 Clarinetti 2 Fagotti 2 Corni 2 Trombe 3 Tromboni Timpani
Tamburello Triangolo Piatti TamTam TomTom Gran Cassa Shou Pianoforte
Violini I Violini II Viole Violincelli Contrabassi

舞台美術：川口直次